

自分にあった・用途に応じた「英和中辞典」の選び方

高瀬 博

1. 問題提起

新学期が始まる4月、書店に行くとおびただしい数の「英和辞典」が積み重ねてある。情報過多の現代の日本、どの辞書も同じだろうと安易に考えている読者も多いだろう。確かに absolute zero (絶対零度) や the signs of zodiac (黄道十二宮) といった単語なら記述内容にそう大差はないが、そんな簡単な単語ばかりではない。各社各様のセールスポイントがあり、編集方針も違う。それでは自分にあった・用途に応じた辞書を選ぶにはどこに焦点を当てればいいのか？

今回は、業界で「英和中辞典の四天王」と呼ばれている代表的な中辞典4つ『ジーニアス英和4版』(大修館)、『ウィズダム英和2版』(三省堂)、『レクシス英和初版』(旺文社)、『アドバンスト・フェイバリット英和初版』(東京書籍)に、それに昨秋新たに加わった『アンカー・コズミカ英和』(学研)を例にとりながら「自分にあった辞書選び」のポイントについて述べることにしよう。

2. 英語圏との文化の違いを知るには

「国際化」が叫ばれる今日、真の意味で英語圏の方々を理解するには、その国の歴史や文化を知らなくてはならない。レストランでのお勘定を払う場所やウェイターとの関係、責任の取り方など日本人にはわかりにくい文化の違いを【英語文化のキーワード】【和英のツボ】【日英比較】【解説】【参考】といったコラムの中でわかりやすく記載しているのが『アンカーコズミカ英和』(学研)である。中でも特筆すべきは、conscience (p.384), personality (p.1385), soul (p.1771), spirit (p.1787) といった精神面を表す語の解説だ。「競争」より「協調」を尊ぶ日本では負の評価しかされなかった competition

(p.367) の概念も、該当のページを読むことで、「出る杭は打たれる」「臭いものにはふた」式の日本的な考え方を脱却することこそ真の国際化に必要なことだと認識させてくれる。また主要な単語は【語源】を読むことでその語の歴史的背景を垣間見ることができる。全ページに散りばめられたこうしたコラムを読むだけでも一読の価値のある一冊だ。物はためし、responsibility (責任), restaurant (レストラン), spadework (根回し) を調べて、『アンカーコズミカ英和』のすばらしさを実感してみてはいかがだろうか？

3. 百科事典なみの知識を得るには

従来の「英和辞典」を調べてみると、ただその語の日本語訳を与えているだけのものが多い。たとえば Lassa fever (ラッサ熱), hay fever (花粉症), zoom lens (ズームレンズ) といった具合だ。知識欲のある読者にとっては物足りない限りだ。しかし『アドバンスト・フェイバリット英和』(東京書籍)だと、日本語訳はもちろん、それがどんなものなのかをわかりやすく解説してあるのだ。また同種の英和には記載のない【医療】【服飾】【料理】【コンピュータ】関係の専門用語も充実している。

たとえば ZIFT (体外受精), zoster (帯状疱疹), quinsy (扁桃腺炎), knife pleat (ナイフプリーツ), half-slip (半スリッパ, ベチコート) といった具合だ。またよく耳にする商標 KFC (ケンタッキーフライドチキン), Häagen-Dazs (ハーゲンダッツ), Yves Saint Laurent (イブサンローラン) や英国の代表的料理 kidney-pie (キドニーパイ), イタリア料理の lasagna (ラザーニャ), それに OLTP (online transaction processing: オンライントランザクション処理), EPOS (electronic point of sale: 電子販売商品管理), CAE (computer-aided engineering:

コンピュータ援用エンジニアリング) といったコンピュータ関連用語も豊富だ。Zionism (シオニズム) に至っては簡単な歴史まで知ることができる。知識欲のある読者なら座右の書となること間違いなしだ。

4. 実際に使われている例文が豊富なのは

「文法書にはこう書いてあるが、実際はどうか」といういわゆる「日本国英文法」に疑問を抱く多くの英語教員の要望により、英語圏在住の教養ある母国語話者百余名の協力によって作られたのが『レクシス英和』(旺文社)である。本辞典では【COMMUNICATIVE EXPRESSIONS】と【PLANET BOARD】のコーナーをもうけ、「生きた英語表現の宝庫」ということばを意のままにしている。

【COMMUNICATIVE EXPRESSIONS】を読めば、

(1) Spare me nothing. (p.1809)

洗いざらい話してください。

(2) Hey presto! (p.866)

はい、このとおり。(手品師のかけ声)

【PLANET BOARD】を読めば、It is necessary に続く that 節内の動詞の形 (p.1242) や It is time that に続く時制 (p.1982)、さらには have only to と only have to (p.839) などを実際のデータを図示し視覚に訴える説得力のある記述だ(『詳説 レクシスプラネットボード』(旺文社)でもっと詳しく知ることができる)。

また【名言名句】のコラムでは、心の琴線に触れる人生の指針をいたるところに掲載している。

(1) Only solitary men know the full joys of friendship. (p.724) (Willa Cather)

ただ孤独な人たちだけが友情の豊かな喜びを知っている。

(2) Things are beautiful if you love them. (p.148) (Jean Anouilh)

物事はあなたが愛しさえすれば美しい。

(3) I like the dreams of the future better than the history of the past.

(p.736) (JEFFERSON)

私は過去の歴史より未来の夢の方が好きだ。

こういった、心温まる金言がいっぱいだ。先人たちが残した多くの金言を英語で読むことを通し、読

解力の大切さだけでなく現代失われつつある「心の教育」にも役に立つコラムではないだろうか。

5. 日本初の corpus-driven 英和辞典は

世界で初めて特化した「コーパス」を用例集として使った辞書として知られる Johnson の辞書が発売されたのは、1755 年のことであった。それ以来いろんな出版社が電子化されていないものも含めて独自のコーパスをもとに辞書を世に出してきた。しかしながらここで盲点になるのは、「多くのネイティブが使っていたら本当に正しい表現なのだろうか」「ネイティブさえ気付かない言語事実があるのではないか」ということであった。そこで「コーパスを活用し、きめ細かな語法分析」をした上で例文を精選して作った、「corpus-driven」の英和辞典、それが『ウイズダム英和 2 版』(三省堂)である。使用した三省堂コーパスは、ジャンルやレジスターなどのバランスに細心の注意を払いながら、日本人学習者のために独自に開発したものだ。corpus-driven と user-friendliness を突き詰めるほど、英英辞典の構造に近づき、結果的にグローバルスタンダードな英和辞典になったのだ。そういったことを考えると、【コーパス頻度ランク】や【コーパスの窓】は特に一読の価値がある。たとえば p.962 の be interested to の説明や p.1330 の take part in A と join in A の違いなどは見やすくわかりやすい。またあちこちに記載されている【読解のポイント】のコラムでは、長文読解には欠かせないディスコースマーカー(談話標識)を簡潔にまとめている。詳細は、p.250 but や p.1135 may の項にある【読解のポイント】を読めば、大学入試だけでなく一般の社会人が英字新聞を読むのにも役立つ。そのうえ、購入者が登録すれば、見出し語、コミュニケーション・コラムの対話例、重要成句の用例などがネイティブ・スピーカーの音声で聴けるウェブ辞書「Dual WISDOM デュアル・ウイズダム」での検索サービスも可能である。購入して損はない一冊だ。

6. 語法・文法用語・こなれた和訳を得るには

『ジーニアス英和』(大修館)という、「語法に強い」という定評がある。たとえば、p.543 には

対称動詞 (symmetrical verb) としての agree, disagree, match, resemble の用法が簡潔に記載されている。また文法用語についての説明も天下一品、類書に例を見ないほどだ。詳細は dangling participle (懸垂分詞 p.494), split infinitive (分離不定詞 p.1844) を参照されたい。辞典のあちこちにちりばめられた【語法】のコラムだけでも一読の価値がある。また「こなれた日本語訳」「なるほどと納得のいく英訳」がいたる所で例文として使われているのも魅力の一つだ。たとえば、

- (1) Don't dally on the way home.
道草をしてはいけません。(p.492)
- (2) Complaining won't change anything.
文句を言っても始まらないよ。(p.402)
- (3) I don't have to take orders from you.
あなたにあれこれ指図される筋合はない。
(p.1375)
- (4) You have a comeback for everything.
君は口の減らないやつだな。(p.391)
- (5) a vehicle-free promenade
歩行者天国 (p.789)
- (6) call signal with melodies
着メロ (p.284)
- (7) a leap in logic 論理の飛躍 (p.1155)
- (8) the confusion of freedom with license
自由と放縦のはき違え (p.415)
- (9) the presence of star performers
スターの貫禄 (p.1511)
- (10) grated cheese 粉チーズ (p.337)
- (11) We never close.
(掲示) 年中無休。(p.368)
- (12) cut one's cables
背水の陣を敷く (p.278)

などなどあげればきりが無い。

新たな目でぜひもう一度、『ジーニアス英和4版』を読んでみることをお勧めしたい。

7. 記載内容の比較

ギリシャの歴史家で有名な Herodotus (ヘロドトス), Opium War (アヘン戦争), Emancipation Proclamation (奴隷解放宣言), dwarf planet を調べてみた。すると各辞書とも記載されていること

が異なることがわかる。Opium War を例にとると、『ジーニアス英和4版』では1839-1842と記載されている一方『ウィズダム英和2版』には1840-1842と書いてある。また、『レクシス英和』には、1839-1842, 1856-1860と2回にわたって行われたと記載されている。ヘロドトスの生存時期についても各社各様だし、dwarf planet の訳語も、「矮惑星」としているものもあれば「準惑星」としているものもある。

こういった違いは、さまざまな所で発見することができるのだ。これを機会に皆さんもいろいろな英語辞書を読み比べてみてはいかがだろうか。きっとあなたも「英語辞書のとりこ」になることだろう。

8. おわりに

日本では、今まで紹介したもの以外にも、『新英和7版』(研究社)や『ロングマン桐原英和初版』(桐原書店),『プログレッシブ英和4版』(小学館)といった数多くの魅力的な「英和辞典」が発売されている。それぞれの辞典の持つ長所を理解した上で「自分にあった・用途に応じた『英和中辞典』」を選ぶのに、この文章があなたの辞書選びの一助となれば幸いです。

(英語辞書研究家)